



動物福祉の理解

アップルビーら編著

佐藤衆介・加隈良枝 監訳

ISBN 978-4-89531-292-9 発行所：緑書房
発行：2017年5月30日 価格：7,500円＋税

本書は、動物福祉を理解し、課題を見つけ、科学的に検討する手段（戦略）を見出し、実践的に対応するための、動物福祉に関する総合的指南書である。「動物福祉向上への努力は、感情ではなく科学に裏打ちされた時に初めて世界的に効果を持つことになる。」という、本書の「監修をおえて」に記載されている言葉が、本書の性格を端的に表現している。現在、飼養管理基準の策定において、家畜福祉に関わる判断が極めて重要であり、その判断根拠が、本書には分かりやすく、丁寧に示されている。

本書は、この分野の先駆的役割を担うApplebyらによる「Animal Welfare 2nd Edition」（2011）の翻訳本である。第1版「Animal Welfare」（1997）は、本書の監修を担当した一人の、動物福祉学の先駆者である佐藤衆介氏らにより翻訳監修され、出版されている（動物への配慮の科学、2009）。「論点」から「実行」に至る5つのパートで構成されているのは前書も同様であるが、本書の内容は、これとは大きく異なる。これは本書で引用されている論文の60%以上が、第1版出版後に公表された論文であ

ることからも読み取れる。また、著者は46名（13カ国）と第1版に比べ12名（4カ国）増加、すなわち、動物福祉研究が世界的広がりを見せている証拠でもある。また、翻訳は極めて理解しやすい文章で構成されている。

原著の編者らによる緒言に、1997年（第1版原著出版）以降における動物福祉に関する進展が指摘され、その進展の5つの象徴的出来事の一つに、「OIEによる世界的な動物福祉指針の策定」が挙げられている。この指針は、本年4月に示されたJGAPの農場用管理点と適合基準 家畜・畜産物2017とも関連している。

こうした動物福祉が世界的に進展する時代背景のもと、本書は作成されている。したがって、動物福祉研究の必要性を初期から打ち出し、それを担ってきた者や、現在それを担いさらに発展させようとしている者、また、これから担うべく既存研究の確認や新たな視点導入に努力している者は、本書を確実に読み進めることで、多くのことを学ぶことができる。

また本書には、「動物福祉」に関する総合的解説書としての性格もあり、畜産業や動物に関わる者すべてで、過去の動物福祉研究の成果や国際的広がりを理解するのに、きわめて有用な著作と言える。さらに、高校教育や大学での教養的教育において「動物福祉」の真実を学び、科学的研究に裏打ちされた家畜福祉を多くの人々が知ることで、わが国の動物福祉の実践は格段に進展するだろう。

（酪農学園大学 家畜管理・行動学 教授 森田 茂）